

シリーズ
後藤新平人脈考⑦

正力 松太郎

今年度第1回企画展「後藤伯記念公民館誕生物語」と併催で実施しているのが、標記展示です。「読売中興の祖」「プロ野球の父」「テレビ放送の父」「原子力の父」と呼ばれ、幅広い活躍をした正力松太郎の人となりに迫ります。

富山県出身。東大独法科卒。警視庁に入る。1923（大正12）年、難波大助が摂政宮皇太子のお召自動車に発砲した「虎ノ門事件」の警備責任を負って、懲戒免官となった。その後、後藤新平から10万円を借りて読売新聞を買収、7代目の社長となった。

大正13.2.26 読売新聞社の7代目社長就任

14.11.15 ラジオ版創設（ラジオ聴取者が急激に増え、読売読者も急増）

昭和 6.11 第1回日米野球戦「ゲーリック一行招聘」を東京ほか七都市で開催

6.11.25 「タ刊」発刊。（昭和6年9月18日満州事変が突発し、新聞競争は速報戦）

9.11.4 ベーブ・ルース一行を迎えて、第2回日米大野球試合挙行

9.12.16 初のプロ野球団として読売巨人軍の前身「大日本野球倶楽部」創設

16.11.3 報恩のため、岩手県水沢町に建てた「後藤新平伯記念公民館」が落成。水沢町に寄贈

24.2.23 我が国最初のプロ野球コミッショナー就任。6月2日日本野球連盟会長

27.7.31 日本初のテレビ放送予備免許が「日本テレビ放送網」に下付。同年10月28日会社正式発足

28.8.28 日本テレビ放送網、本放送開始

30.2.27 富山県2区から無所属出馬、衆議院議員初当選。保守合同に一役。（以後計5回当選）

30.11.22 第3次鳩山内閣国務大臣（北海道開発長官）・科学技術行政協議会副会長

31.1.1 原子力委員会委員長（初代）。我が国原子力平和利用の基礎を固める

32.7.10 第1次岸内閣国務大臣（国家公安委員長・科学技術長官・原子力委員会会長）

33.8.8 読売テレビ放送取締役会長

44.10.9 保養中の熱海市、国立熱海病院で、冠不全のため死去。84才。



【社長室肖像画】

【正力松太郎と後藤新平の交わり】（正力松太郎の追想から）

私と後藤さんが親しく話を交わすことになるのは、大正12年の9月山本内閣で後藤さんが内務大臣になってからである。その時私は、警視庁の官房主事だった。当時の後藤さんは「後藤の大風呂敷」とか「实际的でない」と言われていたので、湯浅倉平警視總監のもとへ行き、「今度後藤さんが内務大臣になられたが、私を地方官に転任させていただきたい」という話をした。湯浅さんは、びっくりして、「後藤さんは君を非常に信用しておるようだ。また僕もぜひ君にやってもらいたいのだが。」「その後藤さんが嫌いなんです。私はあなたの下でなら喜んで働くが、後藤さんが嫌なんです。」「それなら、官房主事をやめて警務部長をやってくれぬか。そうすれば、政治警察に関係しないし、直接後藤さんが指揮することもないから」と言われたので、「それでは警務部長にしてください。」と言って私は警務部長になった。ところが、2~3か月仕事をやっているうちに、後藤さんは世間の噂のような大風呂敷じゃない。言われることの話に筋が通っている。しかも非常に先に見える人だ、偉い人だなという感じがだんだん濃くなってきたのである。



<清書>

<下書き>

閣下諸君
読売新聞社が、後藤新平公の遺徳を永く後世に伝えるため、
ニッポン放送、ラジオ、御社連、発展祝賀會ヲ
今日、祝賀ニ付、私共、其ノ御社ヲ、
シタ一人トシテ、以テ、一言祝賀ヲ申述ヘルコ
トハ、私ノ最も光榮トスル所ナリ、明治ノ初期、
新ニニッポン放送ヲ創設シ、新聞ノ中ニテ、讀賣新聞ハ
最も著名ノ一紙ナリ、而テ、其ノ社長トシテ、
讀賣新聞、今日ニ至リ、其ノ功績ハ、誠に、

閣下諸君
讀賣新聞社が、後藤新平公の遺徳を永く後世に伝えるため、
ニッポン放送、ラジオ、御社連、発展祝賀會ヲ
今日、祝賀ニ付、私共、其ノ御社ヲ、
シタ一人トシテ、以テ、一言祝賀ヲ申述ヘルコ
トハ、私ノ最も光榮トスル所ナリ、明治ノ初期、
新ニニッポン放送ヲ創設シ、新聞ノ中ニテ、讀賣新聞ハ
最も著名ノ一紙ナリ、而テ、其ノ社長トシテ、
讀賣新聞、今日ニ至リ、其ノ功績ハ、誠に、

【読売新聞新館落成祝辞】

後藤伯爵記念公民館



社 聞 新 賣 讀

【後藤伯爵記念公民館】



讀 賣 新 聞 社
正 力 松 太 郎
山 内 義 文
藤 原 銀 太 郎
永 田 秀 次 郎

後藤伯爵追慕講演

【後藤伯爵追慕講演】